

自分にとっての新発見

植物観察家 鈴木 純 Jun Suzuki



野山ではなく、街中をフィールドとした植物ガイドとして独立し、もう8年になる。

この仕事をはじめたばかりの頃は、僕のなかに伝えたいことが多くあり、観察会ではさまざまな話をするようにしていた。しかし最近は、話したいことが減る一方。いまや、ごく簡単なことばかり話すようになってきている。

僕がいま、観察会で一番多く発するセリフは、「花が咲いたら、実ができる」と、「実があるなら、その前に花が咲いていたはず」の2つだ。これだけ読むと、そりゃさうだろう、という言葉がたくさん返ってきてそうなので、ちょっとだけ想像してみてほしい。たとえば、サツキ。5月に咲く赤い花を見たことがある人は多くいても、その「実」を見たことがある人は、思いのほか少ない。場合によっては、サツキには実がつかないと思っている人だっている。しかし、夏以降にサツキの植え込みに近づいてよく探せば、毛深い円錐形の緑色の実をたくさん見つけることができる。そして、それらは11月以降に茶色くなり、先端が星型に割れ、中から細かい種子が出てくるのだ。

くわしい人にとっては当たり前のことだとしても、はじめて知る人にとっては、こうしたちよつとしたことが、大きなおどろきとなる。

また、10月以降は、どんぐりをよく見るようになる

鈴木 純

植物観察家。植物生態写真家。まち専門の植物ガイドとして、都市環境をフィールドとした植物観察会を開催することを生業としている。著書に「そんなふうに生きていたのね まちの植物のせかい」(雷鳥社)、「冬芽ファイル帳」(小学館)など

村上康成・絵

1955年生まれ。絵本作家。岐阜県中津川市の「ひと・まちテラス」に、幅約5メートルの壁画が常設展示されている。ここで1月より原画展が開催され、「雲海のクマタカ」などが展示される(詳細は43頁の下段を参照)

るが、これは、コナラやマテバシイなどの樹木の「実」だ。ということは、この実の前には「花」が咲いていたということになる。ここで、観察会の参加者さんに、「コナラの花って、どんなதாக知ってますか?」と聞くと、これまた、その存在はあまり知られていない。「答えは4月の新緑の時に観察することができるので、来年の春に、忘れずに観察してみてくださいさいね」と伝え、季節が進むことの楽しみを持ち帰ってもらう。

このように、「花と実」というテーマだけでも、植物観察は存分に楽しむことができる。ネコジャラシ(エノコログサ)に花は咲くのか、シロツメクサの実はどこにつくのか、野菜のキャベツの花はどうやって出てくるのか……。身近な植物のことは、知っているようで、じつは知らないことだらけなのだ。世界ではじめての発見をできる人は、ごく限られているが、「自分にとっての新発見」なら誰にでもできる。必要なことは、当たり前のことを当たり前そのままにしないこと。そして、人から聞いたり、本を読むだけで満足せず、自分の五感をちゃんと使うことだ。

ちよつと意識すれば、そこらじゅうに疑問があり、それを確かめるよるこびがある。この世界は、なんっておもしろいのだろう。そんなことを伝えたくて、今日も僕は植物観察会を行っている。

「中津川市ひと・まちテラス」で村上康成 作品展

岐阜県中津川市にある図書館併設の複合施設「中津川市ひと・まちテラス」の1階に、村上康成氏の壁画があります。幅約5メートルの「中津川デザイン」と題された作品は、山と川とそこに暮らす人との調和が描かれています。地元名物の栗きんとんや五平餅もどこかに描かれているそうなので、探してみたいかたがでしょう。

同じフロアで3月末まで、村上氏の絵本やタブロー作品などの一部が展示される作品展が開催されます。

- 1月 『雲海のクマタカ』
『婚姻色のイトウ』
『蝶たち』など
- 2月 『くまくんです。』
『まっている。』
- 3月 『しろいちょうちよがとんでるよ』
『びっけやまのおならくらべ』

同館3階の児童書コーナーには『びっけやまのおならくらべ』、子ども支援センターには『しろいちょうちよがとんでるよ』からデザインされた壁面も待ち受けてくれています。

- 中津川市ひと・まちテラス／岐阜県中津川市新町2-34
開館時間／9:00～21:30（休館日：2月第3火曜日）
- 3月末まで開催
- 問い合わせ先／中津川市役所
☎0573-66-1111（内線4525）
※ 展示内容は変更になる場合もあり

